

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491200107		
法人名	株式会社インテック三重		
事業所名	グループホーム大山田いこいの里		
所在地	518-1421 三重県伊賀市真泥2695-4		
自己評価作成日	平成 30年 9月 25日	評価結果市町提出日	平成 31年 2月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2491200107-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	平成 30年 10月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いこいの里家訓である「いつまでもその人らしく こち良い空間で いきいきとした時間を のんびりと穏やかに ささえ合いながら ともに生活を歩んいこう」を職員全員で取り組んでいます。また、利用者様・家族様が望まれればラストステージを迎えることの出来るよう努めています。

自然豊かな施設、季節を感じられる施設環境で足湯を楽しんでいただき、一日中家庭的な雰囲気の中で、心身の痛みを緩和し、心を癒し、生活が満足出来るように導いていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大山田いこいの里では、気候の良い日は外出困難な利用者も、裏庭の芝生でのピクニックや山々や池が望める広いウッドデッキでのティータイムや足湯で戸外の空気を楽しんでいる。また、様々な介護に関するマニュアルを作成し、職員が自分で学習できるように配付したり、職員満足度が利用者にも与える影響を鑑み、職員の自己評価や人事考課票を作成した上で個人面談を行い評価を見える化して相互理解を深めている。

なお、今年度より利用者の写真入り葉書を作り本人の署名を支援して家族や馴染みの人に送り、馴染みが途切れないような支援を始めた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いこいの里の家訓「いつまでもその人らしくこち良い空間でいきいきとした時間をのんびりと穏やかにささえあいながらともに生活し歩んでいこう」を理念とし、職員に一人ひとりが日々取り組んでいる。利用者が安心して在宅生活の延長で生活出来るように、職員には徹底している	職員に対し、理念は「立ち戻るべき礎」と指導しており、職員は理念を念頭に据え利用者一人ひとりの意向を大切にしつつ、「その人らしい暮らし」の実践に向けて努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が、集落と離れた位置にありなかなか地域との繋がりが取れないところがあるが、地域の行事等は出来るだけ参加し地域の一員であることの意識付けを行っている	地区の農業支援団体から季節毎に花壇の花苗の提供があり、利用者と共に育てている。アジサイ祭りや地藏盆にも地域の一員として積極的に参加して貰い、利用者との関わりを積極的に支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームでの認知症に対する知識や介護について出来る支援について、地域要望があれば積極的に参加します		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度から地域委員1名増加し、施設状況を報告しながらいろいろ意見を聞く貴重な会議であり、実現可能なものは出来るだけ取り入れるようにしている	毎回テーマを決めて運用している。議事録に参加者の「意見・提案」欄を設け、参加者からの意見や提案を運営に反映する仕組みがある。会議名称を変更し、親しみやすい会議にしようと取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは連携を取り合い、事業等の問題を共有しながら事業を進めている。運営委員の一員を担ってもらっているので、市としての意見等は聞ける体制になっている	運営推進会議出席時に意見や情報を得て、運営に反映させている。また、運営に関する疑問や相談等は、直接市に出向いて顔の見える関係を作ることで更なる信頼関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法改正により身体拘束等の適正化をはかるため、運営推進会議を活用し適正化のための対策を検討している。あわせてなぜ拘束が必要なのか明確にし職員が拘束に対する理解を深めるよう研修を随時行っている。	身体拘束適正化委員会を運営推進会議と一体的に運用している。看護師経験のある職員が拘束されている人の悲惨さを職員に伝え、身体拘束防止マニュアルに沿って研修し、「しないケア」に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	常に、入居者を観察しながら、なぜこのようなところにアザがあるのかを全員で検証しながら、虐待防止に繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業には、積極的に協力をを行い説明会等には、出来るだけ参加するよう心がけている。ただ、本人が裁判所への申し出が困難なケースが多々ある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に基づき、利用者や家族に対し納得できるまで十分な説明を行い理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	色々なご意見を頂くようにご意見箱を設置し、面会時にご意見を頂く等したときには、実施内容を掲示している。要望にはすぐに対応出来る場合は対応したのち内容を掲示するよう、職員には話をしている。すぐ対応できないような事柄などは責任者へ報告するよう指示している	運営推進会議、意見箱の設置や介護相談員による利用者・家族の意見要望収集の仕組みがある。面会時等で得た意見や要望は業務日誌を用い責任者に報告され、責任者は実現に向けて努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個別面接を行い、職員の意見が広く反映させるように常に意見等を聞ける体制を施設長中心に実施している。また、人事考課表を基に各自自己点検を行い、施設長によるフィールドバックを行い必ず確認を行いながら進めている	会議や個人面談を行い、職員の意見や提案を運営に反映させる努力をしている。賃金面においても人事考課を基に自己評価と上司の評価を示し、基準の見える化を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長による個別面談等で職員から意見を徴収し、事業主に報告し前向きに進めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々レベルを把握して、同一レベルで業務を行うよう指導がしている。研修は積極的に参加できるよう人員配置を考えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は大切であるが、ネットワークづくり等は出来ていないのが現状です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階での本人との信頼関係を築くことが大事であり、職員が一体となり関係づくりを構築し、出来るだけ不安を取り除くようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や思いはサービス計画に反映し、家族と連絡を密にしながら生活が快適になるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設に入られるまでの状況は家族から説明を受け、必要なサービス対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と向かいあいながら、共に生活することの大切さを常にもって介護に当たっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への情報提供は大切であり定期的に連絡を取り、現状の生活状況等の報告を行っている。また、面会時には必ず現状報告を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか知人や近隣の人々への面会ができていないので家族に依頼しながら本人の希望に沿うよう進めている。また、知人等からの手紙等の返事は必ず返信するよう話をして代筆等を行っている	利用者の写真入り葉書を作成し、本人の署名支援をして家族や馴染みの人に送ったり、馴染みの地元の花見や温泉、寺参りや祭りに参加し、馴染みとの繋がりが途切れない様支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は、利用者本人に任せられているが関係が悪化しないように常に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	どうしてもサービスが終了してしまうと疎遠になりがちであるが、家族等が必要であればフォローは行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重しながら会話を重視し、職員が常にコミュニケーションを図り、問題があれば常に全員で協議を行いながら進めている	何気ない会話から聞き出した本人の思いは、個別記録に記入して職員全員で共有している。また、自立支援につながる活動も、本人の「やりたくない」という意思も尊重し、無理強いはせず、機を待っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報で確認しながら日常生活の中で様子を見ながらご本人により添っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人にとって、グループの中でどのように生活していくか見守りながら把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気づきや意見を出し合いながら、調整を行い家族の意見や主治医の意見を反映している介護計画を作成している	職員が毎週協議しながら利用者全員の週間サービス計画表を作りモニタリングを行っている。本人参加で家族の要望や主治医の意見を反映した介護計画を作成し、変化が生じた時は随時見直しをかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送り・業務日誌を常に職員で共有認識し、実践に取り入れている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状況の変化があり、それにあった支援を行い柔軟な対応を心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ地域とのつながりを保ちながら、地域への参加を心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力を得ながらかかりつけ医との連携を図り、また、協力医は月2回の往診を受け適切な医療支援を行っている。看護師は医師からの指示事項を受け、全職員に指示事項の徹底を図っている	家族の協力を得ながら、常に協力医とかかりつけ医との連携をとりつつ受診支援を行っている。医師への状態の報告や医師からの指示事項は、看護師を中心に適切に実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護職の連携は日頃からとっており、看護師から利用者の変化についてはどのようにするか指示ある。看護師との連絡は常に取れる体制になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の病状等は病院の地域連携室を通じて把握し、病棟看護師から状況を説明を受けながら早期退院に向け常に準備はしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する方針」を明確にし、ターミナル計画を作成し、家族・職員が共有し、主治医と連携を密にとりながら支援している	本人の意向を尊重した「看取りに関する方針」を家族と統一し、全員で共有している。家族の意向で救急車を呼ばず看護師と共に穏やかに看取った例もある。看取りは、主治医と連携を密にし看取り介助及びターミナルマニュアルに従い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の状況を観察しどのように措置するか観察項目を設けて、看護師不在の場合はどのように対応するか日頃から教育をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、常に職員が利用者の状態を把握して非常に備えている。地域との連携は常に地区長と連携を密にしており、協力体制を築いている。また、地域の井戸水の使用も了解を得ている	非常時の協力や地域井戸水使用許可等、地域との協力体制を築き、非常食やガスボンベ、おむつ等の備蓄がある。「避難時誘導一覧表」で誘導方法を色分けしたテープで迅速な避難誘導を工夫している。	備蓄品の消費期限のリスタアップによる適切な時期の定期的な入れ替えと、消防署との連携による効果的な防災訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おむつ交換や着替えは必ず居室でおこない、特に言葉使いや声掛けには注意しながら対応している。声掛けの仕方・性格プライドをはかりながら、常に声掛けを行っている	家族の来訪時、訪問の無い利用者の心情に配慮して、面会は必ず居室でする事になっている。言葉使いには最善の注意を払い、プライドやプライバシーを損なわないよう気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人を主体として決定して頂いている。決定が間違っただとしても見守っていくようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度は、グループで活動をして頂いているが、本人の希望を聞きながら、希望に添った支援をおこなっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期には必ず家族と相談しながら準備をお願いし、本人に合うよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、楽しみの一つであり塩分控えめに提供している。利用者で準備ができる人にはお手伝いをして頂いている。主食は等級Aランクの伊賀米を地元農家から仕入れている	食事準備の音や匂いを感じながら、利用者は台拭き等の準備や嚙下体操をし、職員と話をしながら一緒に食事をしている。月1度の「お楽しみ食」の日は、ひつまぶしやビビンバ等のデリバリーを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は、特に主食は一食の量を決めて提供し、水分は一定量の補給をおこなっている。観察により、きざみやペーストにしながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは大事なことであり、訪問歯科の衛生士による指導受け個々にあったケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた指導をおこなっている。低下された方に対しては原因を追究し、支援を決めている	家族の費用負担の軽減のためにも、おむつの使用を減らそうと、現在リハビリパンツ使用の利用者には時間を決めてトイレ誘導を行っているが、できるだけ利用者にあった方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の観察は常におこない、快適に過ごして頂くようにしている。また、個々によっては薬で出ない場合は看護師による排便などのコントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は基本的にも実施している。幸い施設は景色が一望でき露天風呂の気分を味わっていただける。夏場は入浴以外にシャワーを浴びたりして頂いている	職員と会話しながら、利用者一人ひとりが望む様な入浴を楽しめるよう心掛けている。湯船からの景色を眺め露天風呂気分での入浴や、バルコニーで山や湖の四季を感じながら温泉の足湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルに合わせて自由にして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は大事な業務であり、薬説明書で把握し、服薬後の状況変化等の観察や誤薬や飲み忘れのないようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割を考えながら支援し、個々にやりたいことを聞きながら支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然が楽しめる施設である為、ウッドデッキで食事をするだけでも外出間が味わえるし、広い芝生でくつろいで食事をするだけでピクニック気分を味わえるようそれぞれ工夫しながら支援している	季節毎の花見や足湯や外食を楽しんだり、馴染みの場所へ車で出かける等、外の空気や季節を味わえる様支援している。ウッドデッキで山々や湖を眺めながらカフェテラス気分でおやつを食べたり、広い芝生で食事をしたりと戸外を楽しむ支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことは自由であるしお金の大切さも十分理解しているが、実際には所有している人はいない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙を書いたり自由である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、広く利用者が快適に過ごせるよう工夫しており、蛍光灯も昼光色を使用し温もりを感じていただいています。職員が毎日環境整備を行い清潔・不快解除を行っている。	大きな掃き出し窓から広いウッドデッキへつながり山や湖の景色が眼下に広がる開放感を好む利用者が、眺めの一番良い場所を勧めてくれる。利用者の快適性に配慮して照明は昼光色で、毎日の環境整備にも力を入れており、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、各々自分の居場所は自由にしており、テレビを見たい人はソファでくつろぎ、食堂の自分の席で過ごされる利用者もおられ各自自由に過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで生活してきた部屋の延長を、各部屋にも置けるように家族と相談して居心地の良いようにしている	居室にクローゼットがあり、すっきりと整頓され、清掃が行き届いている。壁には、写真や職員と作った折り紙やちぎり絵が飾られている。安全上簡素化している為、住み慣れた家庭生活の延長感は薄い。	本人が使い慣れた物や好みの物はホームでの居心地の良さに繋がる事を家族にも理解してもらい、事前の職員の訪問等による持ち込み品のアドバイスが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全員が参加できるレクリエーションなどを行いながら、毎日楽しく過ごせるよう工夫している		